



2期生 (法学部 法律学科)

吉田 誠一郎

転んでもただでは  
起き上がらない。



### 01 生まれと育ち

とにかくサッカー

大阪生まれの大阪育ち。我が強く、自分を絶対に曲げない母と、気さくで誰にでも好かれるが、どこか抜けている父の間に生まれた一人っ子。家系全員が日本人にも関わらず赤い髪の私は、老若男女問わず絡まれ、その方々と話す機会が多かったため、誰とも仲良く出来るほど明るい性格に育った。

小学校では、仲良かった友人に誘われサッカーを始める。そこで初めて本気でスポーツをし、恩師から徹底的に負けず嫌いが培われた。

中学校に入りサッカーを続けたが、全員が頭がよく、スポーツもたてたため、劣等感を覚え、勉強だけは負けたくないと思ひ、私立の進学高校に入学する。この高校では、推薦以外サッカー部に入らず、今までして来なかった勉強を始めるもストレスで高校を辞めようとした。しかし、社会人のサッカーチームに所属しそれを生き甲斐になんと高校を卒業。京都産業大学に入学し、むすびわざで悪戦苦闘しながらも充実した生活を現在に至る。



### 02 大学生になってからのこと

本気になる場所の発見

大学1年生の頃は、講義全てにやる気がなく、一日一日をこなす日々が続いていた。実際、学校には友達と会いたい、友達と喋りたいといった考えで通っていた。

だからこそ、サークルに力を入れようとフットサルサークルに入り、大会に出場しては上位入賞。そしてその賞金でチームで遊んでばかりの生活を送っていた。

しかし1年生の終盤、「こんな生活なら、高い学費を出してまで大学に在る必要が無いのではないか？」そう考え、これからどうしようか考えていた時、友人に紹介されたのがむすびわざコーオププログラムだ。

はじめはお金と単位が貰えるという所に惹かれただけだったが、正直辞めたいと思つた事も何度もあったが、小学校時代に培った負けず嫌いのおかげで今もここにいます。だと強く思う。

そして負けたくないと思えたのも、東田先生、1期生のアツいサポートと、2期生同士がプレゼンテーションの大会やスピーチの大会で競い合い、順位を出す。そのような競う環境があったからこそだ。しかし、ただ順位を出すだけでなく、2期生同士でフィードバックを交換し合い、時には自分ものじゃないプレゼンテーションを何人も一緒に作りながら切磋琢磨して来たからだ。これらのおかげで、今も、忙しくも充実した日々を過ごしている。

### 03 長期有給インターンシップ

あまりにも世の中を知らない

私はカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社(CCC)のインターンシップに参加していた。配属先は、大阪梅田にある萬屋書店だった。

ここでは主に、レジ業務や品出しといった従業員の皆さんがやる業務に加え、社員の方が行う、店舗改善の企画にも参加させて頂いた。このお店では、約20万種類の本を扱っており、1000坪の売り場である。新聞やニュースで話題になった本や雑誌から、昔から売れ続けている名著まであるが、私はほとんどの本を知らないという状態だった。その事実から、私は自分が今までどれだけ傲慢で、数々のチャンスを無駄にしてきたのだらうと思うようになった。自分自身むすびわざコーオププログラムの勉強で、周りの人より出来る気になっていたが、従業員の方々は私の何十倍もの知識を持っており、自分より仕事ができる人ばかりだった。そこで自分が井の中の蛙である事を知り、今必要な事は、社会人の方々とお話しし、自分の知識のインプットとアウトプットを増やすことだと思い、インターンシップで頂いたお給料の半分近くを本につぎ込んだ。

ここから就活が始まる。今はまだ情報を詰め込んでいくだけで、まだまだ知った気になっていることが多い。実際、夏に参加した公募型のインターンシップ選考会とき、本で見た内容を、そのままやるつもり

### 04 これからのこと

とにかく経験したい

私はインターンシップを通して、知らないことに興味を持つ好奇心旺盛なタイプだと再認識した。実際、私が本を読むようになったのは萬屋書店の方々からおすめの本を聞いてからで、友人に誘われて、富士山に登ってみたいでした。

そして、去年の年末から今年の5日まで、スリランカで営業をするという経験もした。超発展途上国を見て、そこで行くビジネスを体感したかったからだ。この経験を皮切りに、足を使って、自分の見識をどんどん高め、話をしていて魅力を感じてもらえる人間になりたい。



### 05 大事にしたいこと

周りのせいにしてない

長期有給インターンシップに行くまで、私はうまくいかないことがあれば人のせいにし、環境のせいにしてきた。しかし、他人のせいにしては成長できないと気付いた。なぜなら、インターンシップ中は自分のことは自分でしかできず、環境のせいにしてても何も生まれなかったからである。事実、業務をこなし、目的を持たずに過ごしている日々が続いた。しかし、そのことを東田先生に指摘され、「できるか」「できない理由」を考えるのではなく、「どうすればできるようになるのか」を考えられるようになった。それからというもの、何事もポジティブに考えることができるようになった。だからこそ、インターン先の方々も助けてもらう事も増えた。まだまだ、もしあれが無ければ、、、と考えてしまう事もあるが、これから大事にしていきたい考えだ。



**19歳** 本気でチャレンジ  
大学二回生で恩師に出会い、成長の機会を得ている。

**15歳** やはりサッカーが好き  
高校の部活に入れなかったが、社会人チームに入って充実した高校生活を送った。

**7歳** 頼るより頼られる  
病気で母が倒れ、自立しなくてはならない振舞った。

**プロフィール**  
1995年10月29日大阪の豊中生まれの豊中育ちで、現在は大学の近くで一人暮らし。家系すべての人間が日本人に関わらず、赤い髪がトレードマークです。なんでもやってみることが好きで、特に体を動かす事が好きです。趣味は、読書、音楽鑑賞、映画鑑賞、サッカーです。サッカーは、小学校4年生から現在まで続けていて、プレーする事が大好きです。好きな作家は星新一、好きなバンドは、FOR GET ME A NOTS、好きな映画は紅の豚です。

**吉田理恵 (3期生)**  
吉田さんは熱意がありすぎて怖い時もありますが、それぐらい熱い気持ちでむすびわざの活動に取り組んでいます。自分にも周囲にも優しい一面は、後輩を奮い立たせてくれます。

**先輩・後輩からのメッセージ**  
**清水春也 (1期生)**  
「人との繋がり大切に後輩」という印象です。先輩と関わりを持つために行動している数少ない後輩です。兄貴肌な所もあってか不器用でも行動で示してくれるため周りから頼りにされています。